

日本経済新聞社はさきごろ、第67回日経広告賞(2018年)の大賞をはじめ受賞作品59点を発表した。大賞はクボタ、最優秀賞には内閣府と大日本除虫菊を選んだ。審査対象は広告主、広告会社から応募のあった1027点。クリエイティブの独創性や新規性などを基準に各審査委員会で選考した。主な受賞作品を紹介する。

# 写真の力で魅せるシリーズ 大賞に

日経広告賞 大賞  
クボタ



巨大なる、精密。

壁がある。  
だから、行く。

「世界で最も信頼される農業機械メーカー」として、世界中で活躍するクボタ。その歴史は、1924年に、日本の岡山県で始まりました。当時は、農作業の効率化を目的として、農具の改良に取り組んでいました。その後、戦後には、農機具の製造業として、急速に成長を遂げ、現在では、世界最大の農業機械メーカーとして、世界中で活躍しています。その歴史は、1924年に、日本の岡山県で始まりました。当時は、農作業の効率化を目的として、農具の改良に取り組んでいました。その後、戦後には、農機具の製造業として、急速に成長を遂げ、現在では、世界最大の農業機械メーカーとして、世界中で活躍しています。

株式会社クボタ

For Earth, For Life  
Kubota



クボタ コーポレート・コミュニケーション部長 細谷 祥久氏

2017年1月から、ブランド強化プロジェクトの一環としてシリーズ広告を始めた。共通するコピー「壁がある。だから、行く。」のうち、壁は世界的課題。だから、行くは課題に立ち向かう挑戦の姿勢を示す。足かけ2年に合計7回掲載し、回を重ねるにつれて各方面からの反響が大きくなっていくという。

直近の4回は日本、米、英国、ドイツを舞台に事業分野の3本柱、食料、水、環境の話題を取り上げている。「精密農業に挑む当社最大のトラクター」など世界各地に展開する戦略的商品を紹介した(細谷氏)。スタッフが構図、撮影時刻、撮影方法などにこだわり抜いた写真は「アーティスティックな力が感動を呼び起こした」と審査員に評された。

上段 2018年8月20日付  
下段右から 2017年11月6日付  
2018年1月9日付  
3月12日付

日経朝刊 全30段・カラー